

題材名「仲間とともに表情豊かに合唱しよう」

I 題材構想

- 1 目標
- ・歌詞の内容や曲想を味わい、主体的に合唱に取り組もうとしている。
  - ・音楽要素を知覚、感受したりしている。
  - ・曲にふさわしい発声で、歌詞の発音や語感、曲想からクラスに合った表現を工夫し、合唱することができる。
  - ・パートの役割と全体の響きとのかかわりを理解し、表現を工夫することについて自分の思いや意図を持っている。

2 身に付けさせたい資質・能力及び生徒の実態（男子19名、女子16名、計35名）

	身に付けさせたい資質・能力	生徒の実態
関心・意欲 態度	・歌詞の内容や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む力	・歌うことが好きな生徒が多いが、積極的に表現活動ができない生徒もいる。学級が編成されてから半年経ち、ようやく安心して声を出して歌うことができるようになり、声量も出てきている。
音楽表現の 創意工夫	・音楽を形づくっている要素（音色・リズム・和音など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や、雰囲気を感じ取る力	・要素を理解している生徒は少ないが、感覚的にそれらが生み出す特質や雰囲気を感じ取る力が身に付いてきている生徒は多いが感受したことを強弱や息づかい、フレーズ等の音楽表現に結び付けられる生徒は少ない。
音楽表現の 技能	・楽曲の歌詞の内容や曲想を活かした曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声発音などの技能を身に付けて歌える力  ・音楽を形づくっている要素や表現要素を基に曲の特徴を活かして、合唱表現する力	・自分のパートの音程が正しく歌えない生徒がいるが、歌う意欲はあるので、活動の中では配慮が必要である。 ・響きのある発声で歌えるようになってきた生徒も多く、男女間の声量バランスも良くなってきている。 ・今はまだ、地声で歌っている生徒が多いので、ソプラノの高音の響きを増大させること、アルトの柔らかな響きを持った発声を工夫すること、男声の力みを取るものが課題である。 ・曲のよさや美しさに合った表現方法を選択し、表現技能を的確に用いて工夫できる生徒は数名である。 ・パートの役割を楽譜を見て理解できる生徒は少ない。そのため、パート間のバランスが崩れることがある。 ・楽曲にあった表現方法を試行し、検討する力を伸ばしていくことが課題である。
鑑賞の能力	・歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うか思いや意図を持つ力	・作詞者や作曲者の意図をくみ取って、自分なりに理解をすることはできる。

3 指導と評価の計画（全8時間計画、**3**は本時）

過程	時間	主な学習内容	評価の観点		
			関	創	技
つかむ	1	曲の特徴や全体の構成を捉え、自分のパートを歌えるようにする。 <b>課題</b> 曲に込められた思いや意図を音楽に反映させ、表情豊かに合唱することができる。	○		○
	2	自分のパートを正しく歌えるようにしながら、音程やリズムが難しい部分を練習する。			○
追求する	<b>3</b>	曲の前半部分（1番）を言葉の発音・抑揚・語感を基に、一人一人が感じ取ったことや曲に込められた思いを話し合い試行しながら、クラスに合った合唱表現を工夫する。		○	
	4				
	5 6	曲の後半部分（2番）を言葉の発音・抑揚・語感を基に、一人一人が感じ取ったことや曲に込められた思いを話し合い試行しながら、クラスに合った合唱表現を工夫する。		○	
まとめる	7	前時までの表現の工夫を生かし、声の使い方や強弱表現、速度などを話し合い、試行表現を行って、さらに楽曲の部分にふさわしい表現を工夫し、楽曲を仕上げる。	○	○	○
	8				

II 本時の学習（3／8）

1 ねらい 言葉の発音・抑揚・語感を基に、一人一人が感じ取ったことや思いを出し合い、試行しながら、楽曲にふさわしいクラスに合った表現を工夫する。

2 展開

学習活動	指導上の留意点及び支援・評価	時間
<p><b>1 常時活動と発声練習・前時の復習をし、音楽表現への雰囲気づくりをする。</b></p> <p>①アルトリコーダーの練習 ☆前より吹けるようになってきたぞ。</p> <p>②発声練習 ☆先週より声が響いてきたな。 ☆前より高い声が出るようになったぞ。</p> <p>③前時の復習 ☆自分のパートを正しく歌えてるかな。 ☆他のパートの声も聴いて歌ってみよう。</p> <p><b>「ほらね、」の1番を、言葉の発音・抑揚・語感を基に歌い方を工夫して、曲ふさわしい表現を創り上げよう。</b></p>	<p>○運指がわからない生徒もいるので、運指を見せながら練習する。</p> <p>○生徒の様子を確認し、口形や力の抜き方、呼吸法などのアドバイスをする。</p> <p>○前時までの学習を生かし、それぞれのパートが正確に歌えているか確認をする。</p>	10

学 習 活 動	指導上の留意点及び支援・評価	時間
<p><b>2 歌詞の言葉に着目して、感じた思いを生かし、歌い方を工夫すべき点を話し合ってみる。</b></p> <p>○言葉の発音・抑揚・語感を表現に生かしたい言葉を見つけ、その言葉の音楽表現を各自の楽譜に記入する。</p> <p>○一人ひとりの考えや思いを拡大した楽譜に色マジックで記入していく。</p> <p>☆「きつとね」は、強い気持ちがあるから、はっきりと歌いたいな。</p> <p>☆「ゆっくりそと」は、大きな動きじゃないから、ささやくように歌いたいな。</p> <p>☆「たいせつなともだち」は、大事な言葉だから大きく強く歌いたいな。</p>	<p>○言葉の発音・抑揚・語感を基にして表現の工夫の例を示し、考え方が伝わるようにする。</p> <p>○楽譜への記入は、自分がわかりやすい記号や色などを使ってよいことを伝える。</p> <p>○違う意見は色を変えて記入し、試行するときに分かりやすいようにする。</p>	15
<p><b>3 出された工夫点を試行し、楽曲にふさわしい自分たちに合った合唱になるようにしていく。</b></p> <p>○出された意見を全て試して合唱し、比較しながら、クラスのイメージや思いに近い表現になるように工夫していく。</p> <p>☆歌詞と音楽が結びつくと作者の気持ちが伝わりやすくなるな。</p> <p>☆みんなの表現や思いを、もっとひとつにまとめていきたいな。</p> <p>☆みんなで創るといろいろな思いが出ておもしろいな。</p> <p>☆もっと工夫できそうだけど、どうしたらいいかな。</p>	<p>○試行表現をする中で、クラスのイメージや思いが曲に反映されるように、発声や言葉を明確にするテクニックをアドバイスをする。</p> <p>○話し合ったことを各自の楽譜に記入させる。</p> <p>○音楽を形づくっている要素(音色・リズム・和音など)の働きが生み出す特質や、雰囲気が曲に反映されるように、発声や言葉を明確にするテクニックをアドバイスをする。</p> <div data-bbox="804 1420 1347 1648" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【評価項目】</b>          言葉の発音・抑揚・語感を基に、一人一人が感じ取ったことや思いを出し合い、試行しながら、楽曲にふさわしいクラスに合った表現を工夫している。          (観察・発言・楽譜)</p> </div>	25
<p><b>4 まどめの合唱をする。</b></p> <div data-bbox="248 1787 1289 1944" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;ふり返りの姿&gt;          言葉の発音・抑揚・語感を基に、一人一人が感じ取ったことや思いを出し合い、試行しながら、楽曲にふさわしいクラスに合った表現を工夫することができたか。</p> </div>	<p>○工夫した点や工夫した思いを活かせるよう、合唱する前に全体を通して振り返らせる。</p>	5
<p><b>5 次時の予告をする。</b></p>		